

円盤内の惑星の直接検出？

—頑張れば1-5Mj

惑星の質量をダイナミカルに決めるべき

周惑星円盤のモデルは今のところ入っていない

gapから決める惑星質量？

モデルの不定性

ガスの密度分布の観測：（今後の）感度的に厳しい

→1天体のラージプログラムならいけるか？

12COなどではなく、マイナーな輝線が良い？

→optically thinな輝線：13C180とか長い波長か

→0.01Msunで3-4時間(13C180)

CO → H₂の変換について：ISMとは桁で違う

現在はHDを測る（地上では無理）

midplaneのガスをトレースするにはどのラインを使えばいいのか？H₂D+（難しいALMAで10時間で受かるかもね）

N₂D+はionization tracerとして良さそう

H₂Oは狙うべき

SCEXA0で惑星を見つけていく（暗い天体は難しい）→暗い天体も受けられるカメラを導入していく。観測は開始済み。ただしポラリまだ。

SEEDSに比べて分解能が倍、コントラスト1000倍。

赤外の波長依存性からモノマーサイズ

TMT（感度スゴイ）とJWST（空間分解能はそんなによくない？）

JWSTについて円盤観測の提案は個人レベルではある。

分子輝線観測は世界では強そう

10ミクロンの偏光の装置はなんかおわった？

100ミクロンあたりだとsophiaがある。

中間赤外であればダストは磁場に整列している可能性がある。

円盤の磁場はradialでもいいんじゃない？

→磁場とcoupleしてなければいいんじゃないだろうか。

→どんな形でも再現できる！笑

resistivity が高いと、縦磁場？見方の問題？

表面の流れはradial→大局磁場はradial?（最大限ポジティブな言い方）

遷移円盤に軸足を置いて観測してきたが、その前がどうであったのか？

いわゆる普通の円盤の観測はやるべきだ

理論家としては質量とか基本的な量を知りたい。

サーベイ論文でCOから適当なd/gを言わないでくれよ。

↔理論の人がCOの予測とかまで出すべき？

温度構造ってどのくらいわかるのか？

ガスの温度は光学的に厚いラインで。

複数のtransitionでもわかる。

→少なくとも3バンドくらいの観測で時間も必要

円盤の高さ方向の温度依存性も注意しないとイケない。

